



心が素になる瞬間

鈴木 喜輝

サーベラス ジャパン
 取締役社長

書道を始めて2年。般若心経の写経が終わり、最近ようやく中級へ進級しました。

始めたきっかけは親しい弁護士の先生に誘われたからですが、そもそもは書道自体に興味があったわけではありませんでした。動機は不純なのですが、お稽古の後の仲間同士の食事会が妙に楽しそうに思えて、興味をそそられたからです。

墨をすって毛筆で文字を書く作業は小学校以来、約40年ぶりでした。私は小学校のころに、書道、いえ「習字」を3年ほど習っていました。町のお習字教室で長時間の正座に耐えつつ、手を墨で汚しながら、字を丁寧にきれいに書く練習を、一生懸命していた懐かしい思い出があります。おかげで世田谷区主催の小学生の展覧会にも度々選ばれることがありました。

ご存じの通り書道は、筆と墨を使って半紙の上で文字を書く作業ですが、かつて子どものころ、私が習っていた「習字」とは全くの別物で、文字をベースに毛筆を使って描く芸術だということに、この歳になって初めて気が付きました（もっとも私の作品は、芸術と呼べる代物ではありませんが）。単に文字をきれいに書くことが目的ではなく（そもそも文字は崩しており、原形をとどめていないことが多いため、自分には判読できない作品がよくあります）、文字の形とその文字が持つ意味を使って、自分の精神をいかに表現するかがポイントだと思っています。何よりも大切なのは、集中力。書き初めや発表会でも、何回も練習すれば良い作品ができるというわけではありません。「神経を集中して一気に作品を仕上げていくことができるか」が、出来栄を左右するようです。作品はその時の作者の心の鏡のようです。

私は今年書き初めで「脱出」という二文字を書きました。躍動感と強い思いがよく表れていると、心ひそかに満足しています。昨年までの日本に蔓延していた停滞感・閉塞感から、今年は勢いよく脱出したいとの思いを込めて書いてみました。

日常の雑念から解放され、心が素になる瞬間を与えてくれる書道と、未永く付き合っていくつもりです。